

18 年度 Q2 決算説明会 質疑応答要約

Q) 第 2 四半期の事業セグメント利益は、社内計画に対して上振れだったのか？

A) 全社で約 10 億円の上振れ。特定の事業ではなく、各事業とも若干上振れたイメージ。

Q) 好調だった P&S 事業の利益見通しが下方修正されたが、何か事業環境に変化が起きているのか？

A) 売上に関しては各地域とも総じて堅調な状況に変化はなく、特にアジア・中国は好調が持続している。利益見通しの下方修正は主に部材のコストアップと新興国の景気減速リスクを織り込んだことが要因。製品販売が大きく悪化することは想定しておらず、今の状況が続くのではないかとみている。

Q) プリンティング事業の競合環境に変化はあるか？

A) 一部の製品で、低価格帯で競争が激しくなっていると認識しているが、当社は収益性の低いモデルの販売は抑制しており、大きな影響はないと思っている。

Q) 産業機器の IT 関連向けの見通しに変化はあるか？

A) 現時点では下期については大きな期待はできないと思っている。

Q) 産業機器の自動車・一般機械関連向けの状況はどうか？

A) 中国を除き、好調が続いている。中国向けの見通しは引き下げたが、他の地域でカバーすることで、自動車・一般機械関連向けの売上は維持できるのではないかと期待している。

Q) 第 2 四半期末の棚卸資産が増えているようだが、要因は何か？

A) 季節要因が大きい。セールスシーズンである Q3 に向けてプリンティング製品の在庫が積みあがっていく傾向にある。また今期は家庭用ミシンの最高級モデルが非常に好調で多くのバックオーダーを抱えており、それも棚卸資産の増加要因の一部となっている。

以上